

地域づくり部会報 第10号 特集ページ

・もっと知ろう
・伝えよう

・つながろう

街のトピックス

せいが
菁莪通り

上田中町に菁莪通りと言う長さ200m位の通りがある。名前が珍しく、前々から由来について興味があった。地元に住んでおられる方でも詳しいことをご存知の方は少ないかも知れない。通りの片隅にある石碑には「菁莪とは人材の育成を表し明治16(1883)年開校の菁莪小学校があった所で戦災により焼失して廃校になった」と記載されている。ここから菁莪通りと命名されたのはほぼ間違いのないのでは。学校名を「菁莪」としたのは次のようなことではないかと想像できる。又、一帯は「上田中菁莪」の自治会名となっている。

◇中国の四書五経の中の詩経に収められた「菁菁者莪」の序文に「菁菁(青々と茂る)たる莪(あざみ)は、材を育するのを楽しむなり。君子よく人材を長育すれば、即ち天下之を喜樂す」から「菁莪」と言う言葉となった。

◇江戸時代儒学を中心とした武士教育の藩塾などでこの言葉が使っていた藩もある。「この学校に学ぶ子供は、青々と盛んに繁る莪(あざみ)の如く、賢者たる教師の教育によって才能、人徳を大きく伸ばし立派な人物となることを願った」ものと言われている。

菁莪尋常小学校は文関尋常小学校の児童数増加(当時の文関尋常小学校は329名)に伴い開校。その後、令和3年(2021)に創立150年を迎える文関尋常小学校の菁莪分校を経て独立。校名は、人材育成の心を込めて校名を「菁莪」としたのはないかと。昭和20(1945)年7月の空襲で焼失し62年の幕を閉じた。若し、戦災被害がなかったらその後の本校の歩みはどうなって行ったかと・・・在校生の宮武泰郎さん(上田中在住)に当時の状況について興味深い話を聞きました。

菁莪尋常小学校の校歌(注1)を当時の在校生達で復刻され、CDを文関小学校に寄贈している。又、作家の松本清張(注2)が大正5(1916)年入学した学校でもある。今回の取材で「菁莪」の意味、また当時の状況を知ることが出来、かつての小学校の面影が菁莪通りとして引き継がれていることは意義あること、と思う。



ロ形の校舎・木造2階

当時の学校・下関市史より掲載

(注1)復刻校歌(上田中・宮武泰郎さん提供)

(一)刈 菰^{かりこも}の維新の風雲叱咤^{ふううんしった}して

大義^{たいぎ} 徇^とへし高杉の
雄々しき意義を鏡とし
日本魂^{やまと} 研^{みが} かなん

(二)菁^{せい}々^{せい}と生い立つ莪^わこそ我が校の

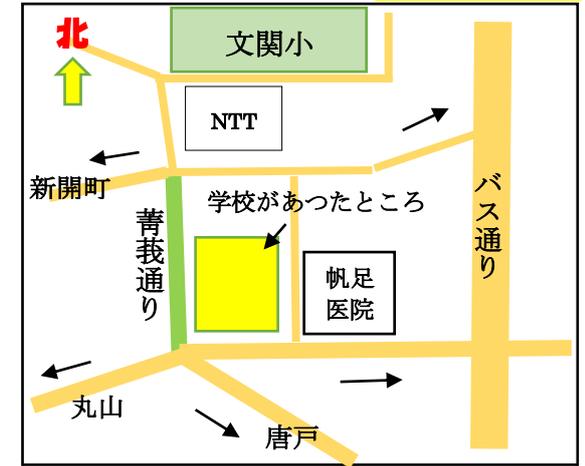
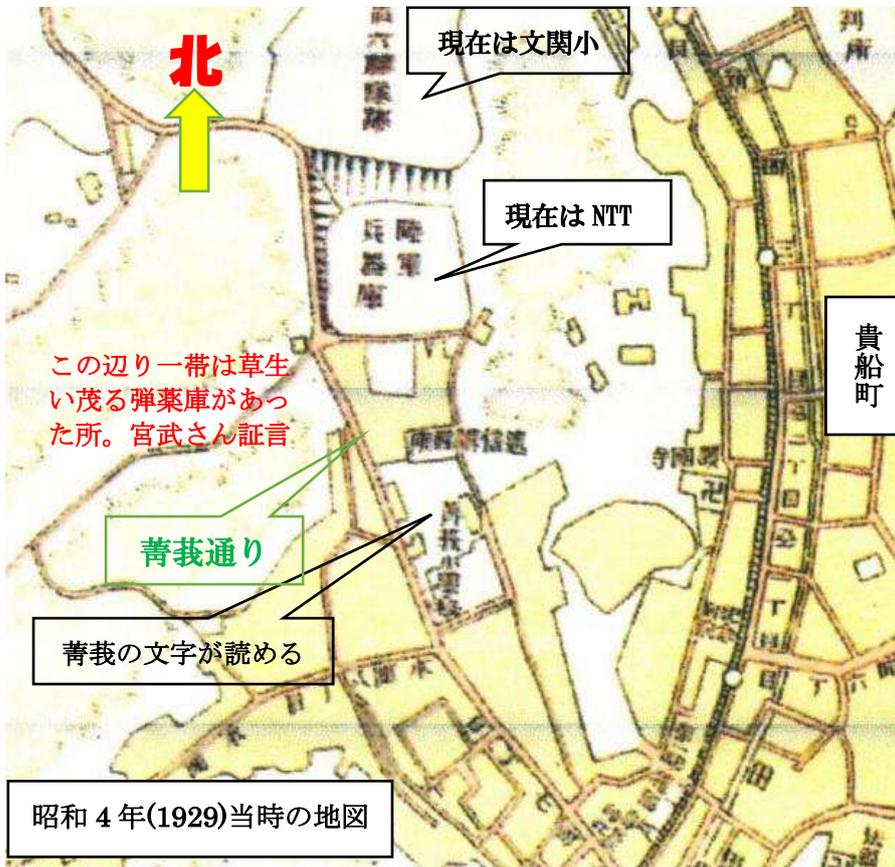
進みてやまぬ象徴^{しるし}なれ
積極^{かち}進取^ち 楫^かとりて

学びの道^{みち}に勵^{はげ}まなん

(三)早^{はや}朝^{あさ}の早^{はや}き流れに遅^{おそ}れじと

古^{ふる}き歴史^{れきし}に新^{あたら}しき
強^{つよ}き力^{ちから}を加^くえつゝ
我が校風^{がうふう}を仰^{あや}がなん

(注2)現東行庵顧問安富静夫先生からご提供いただいた資料による。松本清張は一時上田中に住んでいた



宮武泰郎さんからのお話

- ◇学校周辺は小高い丘に囲まれ、雨が降れば低地なので膝まで浸かって、子供たちはわくわくドキドキ探検家気分ではしゃいでいた（今では想像すらできない）
- ◇西に草生い茂る中に弾薬庫、東に防空壕（現在の奥小路公園、防空壕を造営する前には洋食レストラン「清月」があった）
- ◇近くの馬蹄屋からひずめ(注3)に焼く付ける度に煙が出ていた。当時の物流は馬車などが主流の風景が窺える。
- ◇グラウンドの隣は、逡信講習所。トンツー（モールス信号）の訓練で人々は頑張っていた。
- ◇校舎は、ロ型で木造2階建て、廊下はいつもぴかぴか。良く磨いたからよく滑る。中庭で朝礼。
- ◇正門前、裏の通学路には文具屋があり便利であった。
- ◇小路を隔てたグラウンドで土俵開き、かの大横綱双葉山(注4)が来場。10人ばかりで大勝負。勝負は明らか。大きな腹にひっかき傷をつけた。

(この他にも数々のお話がありました。誌面の都合で割愛させて頂きました。宮武さんは昭和17(1942)年入学、終戦の時は4年生。記憶も確かなものでした)



(注3)蹄鉄を高温に熱し、ひずめに焼き付



69連勝の記録は今も破られてない
(注4)上の写真は「しものせきなつかしの写真集」から。昭17(1942)年頃中国満州興行で下関に。関釜船の中でのショットか?



双葉山定次 (1940年頃)